

2018年1月期（第34期）決算説明会

株式会社ACCESS

2018年3月15日

ACCESS™

ACCESS CO., LTD.

© 2018 ACCESS CO., LTD. All rights reserved. | Confidential

本資料の注意点

- 本資料に含まれる業績目標等の将来数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき弊社グループで判断したものです
- 将来数値には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの将来数値と異なる場合がありますので、この将来数値に全面的に依拠して、投資等の判断を行なうことは差し控えてください

●ACCESS、ACCESSロゴ、NetFrontは、日本国、米国およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。●IP Infusion、IP Infusionロゴ、ZebOSは、IP Infusion Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。●その他、文中に記載されている商標、会社名およびロゴマークは、それぞれ所有する会社に帰属します。

目次

- I. 2018年1月期（第34期） 決算概況
- II. 2018年1月期（第34期） セグメント別事業状況
- III. 中期方針
- IV. 2019年1月期（第35期） 計画

Appendix

I. 2018年1月期（第34期） 決算概況

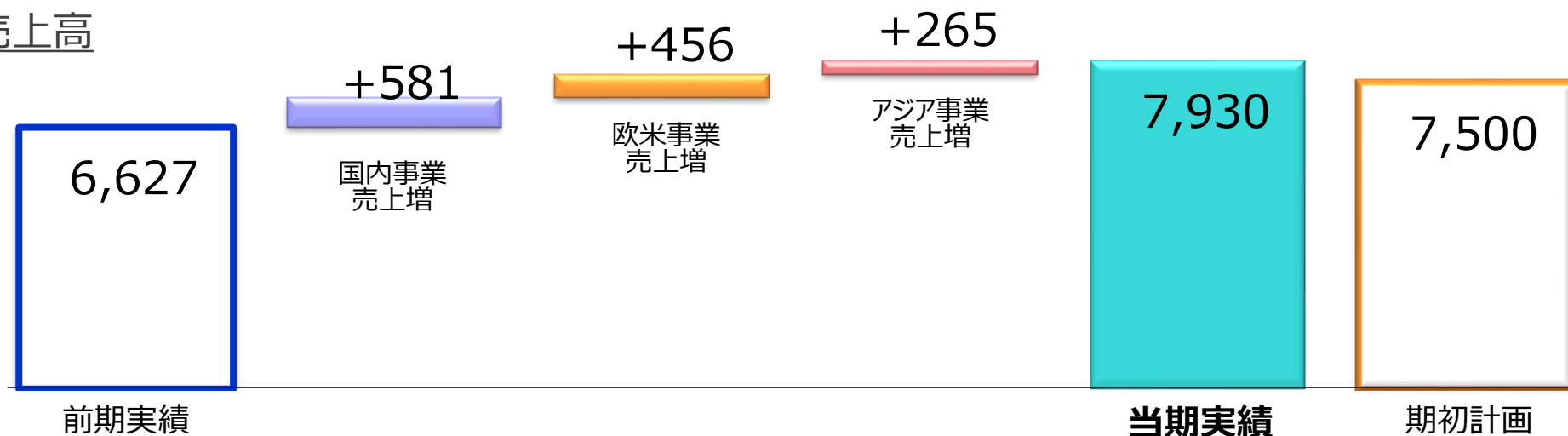
2018年1月期 通期業績ハイライト（単位：百万円）

IoT分野とネットワーク分野の売上増により、前年実績・業績予想値に対して増収したが
低粗利の戦略的な受託開発案件・ハードウェア販売の増加や一部ソフトウェアの早期償却により減益

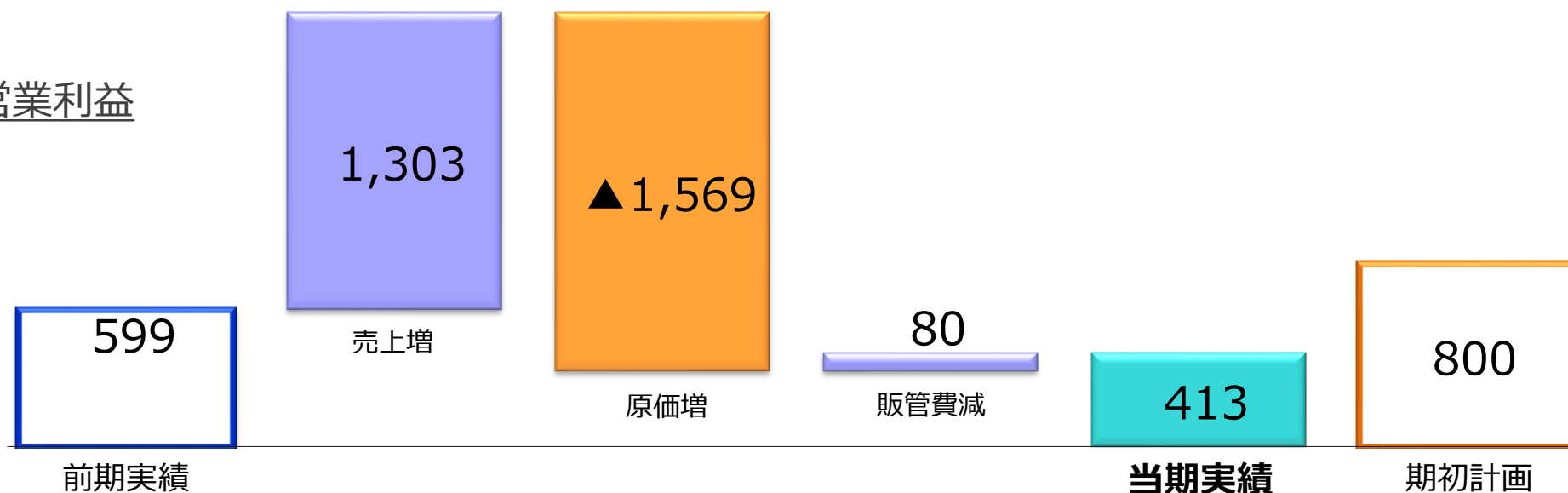
	前期実績	当期実績	前期比		期初計画	差異
					(2017/3/15 公表)	
売上高	6,627	7,930	+1,303	+19.7%	7,500	+430
売上総利益	3,538	3,271	▲266	▲7.5%	—	—
営業利益	599	413	▲185	▲31.0%	800	▲386
営業外損益	▲206	▲97	+109		—	—
経常利益	392	316	▲75	▲19.4%	800	▲483
特別損益	22	▲22	▲45		—	—
法人税等	100	45	+55		—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	314	246	▲67	▲21.6%	600	▲353

売上高・営業利益の前期比増減（単位：百万円）

売上高



営業利益



II. 2018年1月期（第34期） セグメント別事業状況

セグメント別事業状況（単位：百万円、人）

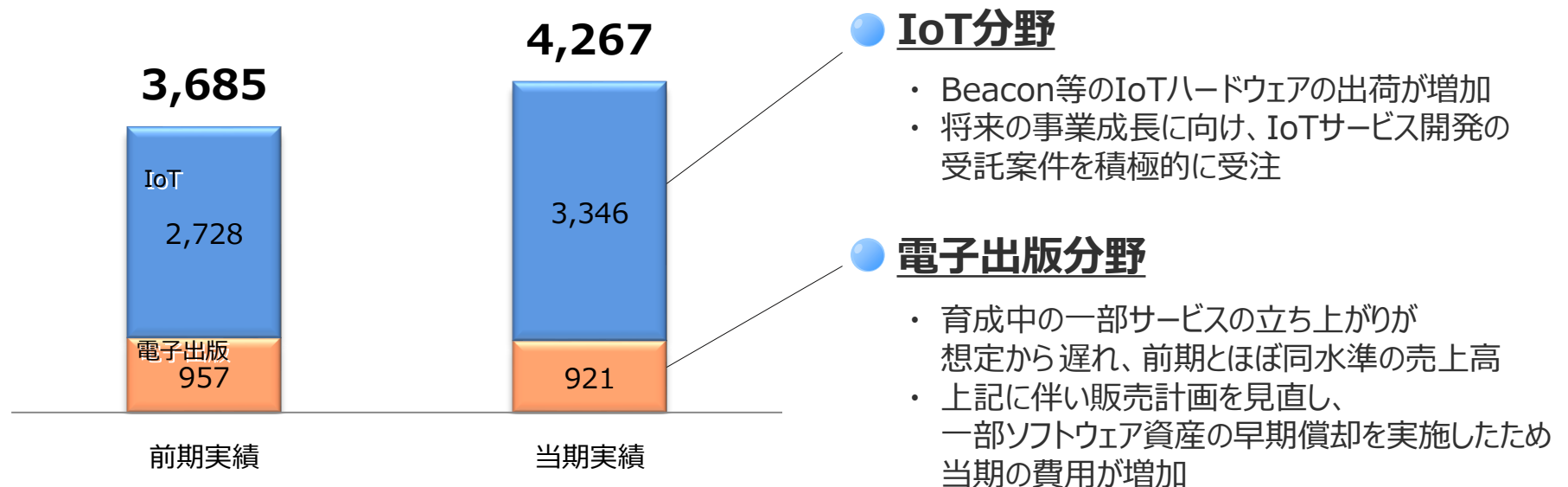
－ 国内事業 －

	前期実績	当期実績	前期比		期初計画
売上高 ^{※1}	3,685	4,267	+581	+15.8%	4,150
セグメント利益 ^{※2}	673	363	▲309	▲46.0%	720
社員数	166	171	+5		

※1 外部顧客への売上高 ※2 本社費配賦後の営業利益

※2018年1月期第1四半期より報告セグメントを変更したため、過年度分の業績・人員を変更後のセグメント区分に従って表示

売上推移



セグメント別事業状況（単位：百万円、人）

－ 欧米事業 －

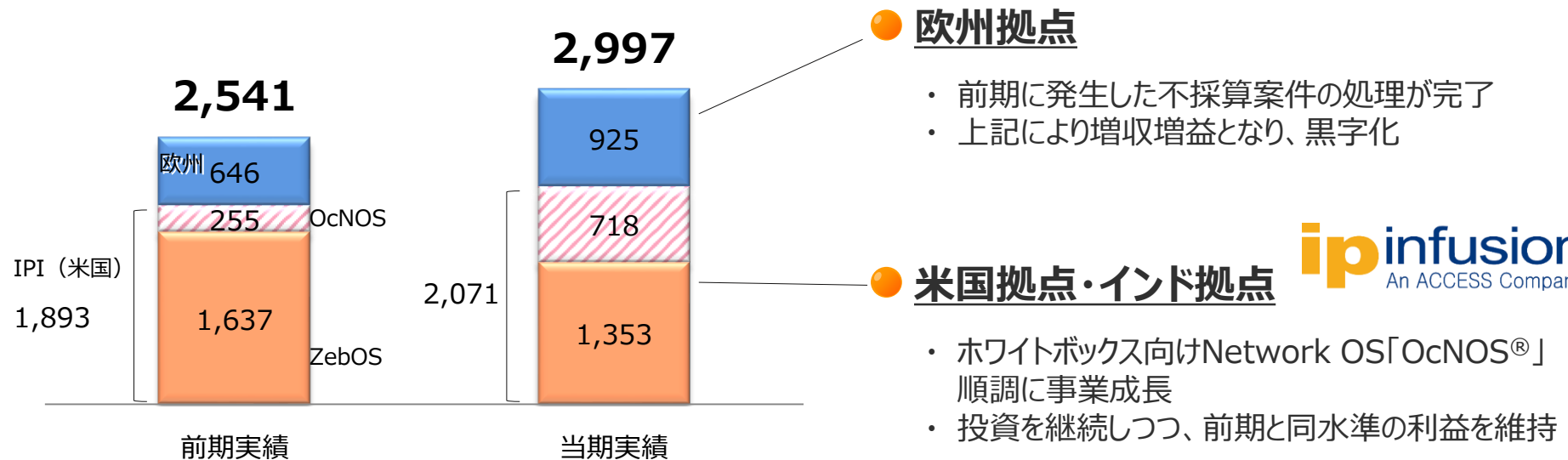
	前期実績	当期実績	前期比	
売上高 ^{※1}	2,541	2,997	+456	+17.9%
セグメント利益 ^{※2}	47	130	+83	+176.1%
社員数	311	291	▲20	

期初計画
2,600
75

※1 外部顧客への売上高 ※2 本社費配賦後の営業利益

※2018年1月期第1四半期より報告セグメントを変更したため、過年度分の業績・人員を変更後のセグメント区分に従って表示

売上推移



セグメント別事業状況（単位：百万円、人）

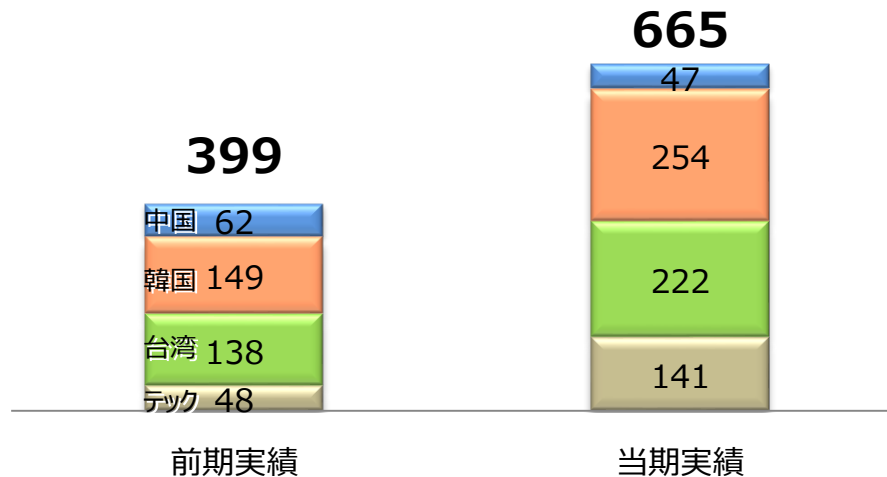
－ アジア事業 －

	前期実績	当期実績	前期比		期初計画
売上高 ^{※1}	399	665	+265	+66.5%	750
セグメント利益 ^{※2}	▲119	▲72	+46	－	5
社員数	57	67	+10		

※1 外部顧客への売上高 ※2 本社費配賦後の営業利益

※2018年1月期第1四半期より報告セグメントを変更したため、過年度分の業績・人員を変更後のセグメント区分に従って表示

売上推移



● 中国・韓国・台湾

- 中国と韓国は本社と連携してブラウザの拡販に注力
 - 韓国は増収増益となり黒字化
 - 中国は減収したものの、前期並みの損益を維持
- 台湾はリピート通販支援サービス「CROS™」が順調に事業拡大し黒字化

● ACCESSテック（ACCESS NOAから社名変更）

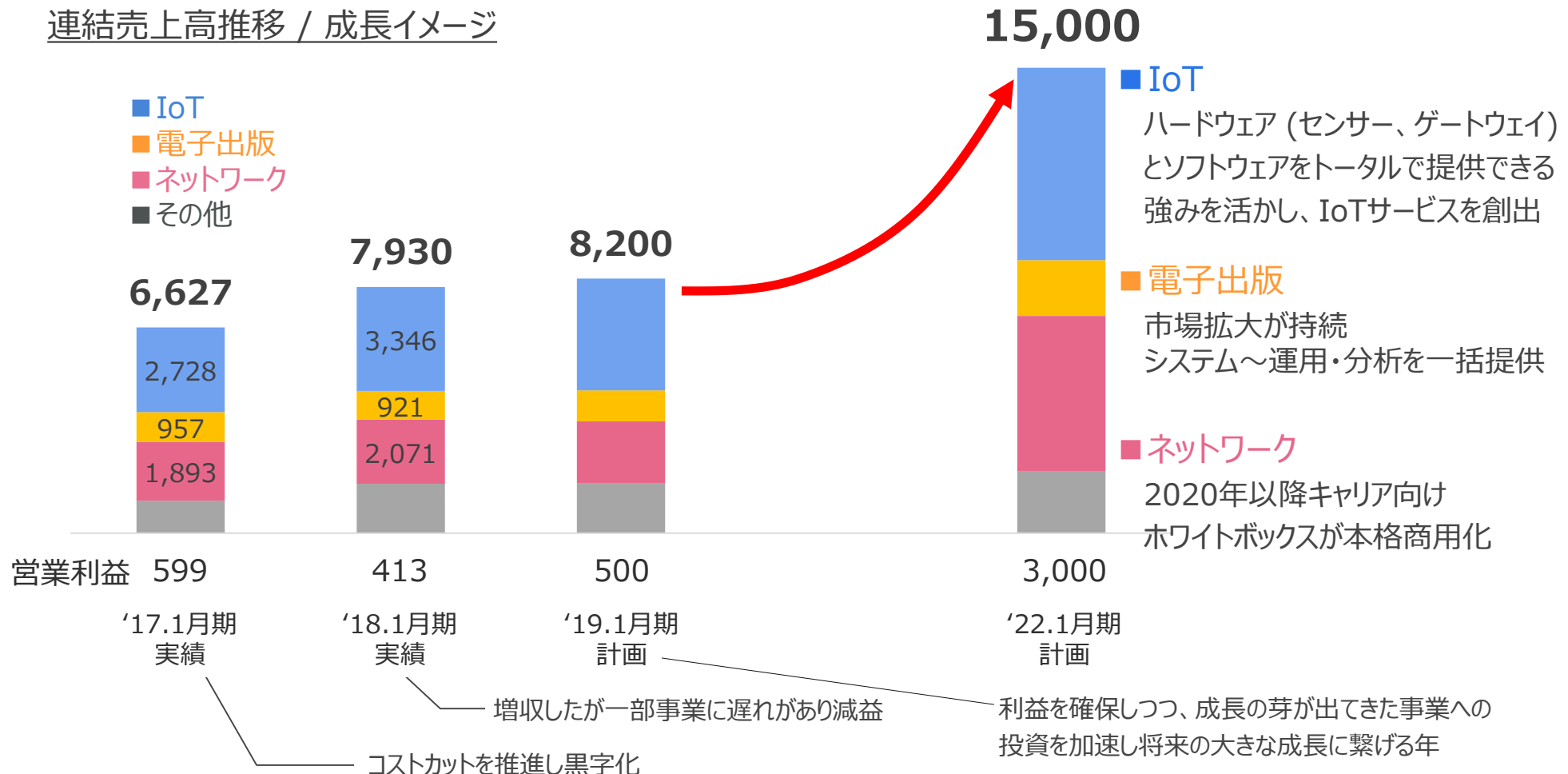
- 組み込みソフト開発やSI受託で事業を拡大したが、当初計画には届かず赤字

III. 中期方針

今後の方針 (単位：百万円)

IoT、電子出版、ネットワークの3分野を注力分野として製品開発投資・戦略投資を積極化し、
2022年1月期（3期後）に連結売上高**150**億円 / 営業利益**30**億円の目標

連結売上高推移 / 成長イメージ



IoT分野 取り組み

- ・「ブラウザ」と「IoTサービス」の2軸で事業拡大
- ・自社サービスを創出し、ストック収益を中心とした事業構造へ転換

ブラウザ

強み

- ・TV向けの採用実績
- ・放送・エンタメ関連の技術領域

当面の取り組み

東京オリンピックに向け、TV向けブラウザの更なるシェア拡大

成長戦略

- 日本： TV向けブラウザの高シェアから得られる視聴データを用いた新規事業を創出
- 海外： 車載向けに自動運転技術確立後の車内エンタメ需要への対応

IoT

強み

- ・IoTのハードウェアからソフトウェアまで一括提供できる数少ないベンダ

当面の取り組み

特定の産業領域にフォーカスし、センサーデバイス提供とIoTサービス開発受託で実績・知見を蓄積

成長戦略

- 日本： 当社が得意とする要素技術提供から自社サービス提供・運用へ事業の幅を拡大
- 海外： 日本で蓄積した経験を横展開

電子出版分野 取り組み

- ・ 国内電子出版市場の約7割を占めるコミック分野で、大手出版社を中心に事業基盤を確立済み（集英社「少年ジャンプ+」「ジャンプBOOKストア!」、小学館「サンデーうぇぶり」、KADOKAWA「BOOK☆WALKER」等）
- ・ 引き続きマーケットシェアの拡大に努めるとともに、「PUBLUS®」の機能提供範囲を拡大し、既存顧客・サービス向けに収益拡大を図る

2018年1月期 新規採用事例



「サンデーうぇぶり」

© Shogakukan Inc.
All rights reserved.



「ジョジョの奇妙な冒険」
公式アプリ

© 荒木飛呂彦&LUCKY LAND COMMUNICATIONS/集英社



「マンガBANG!」

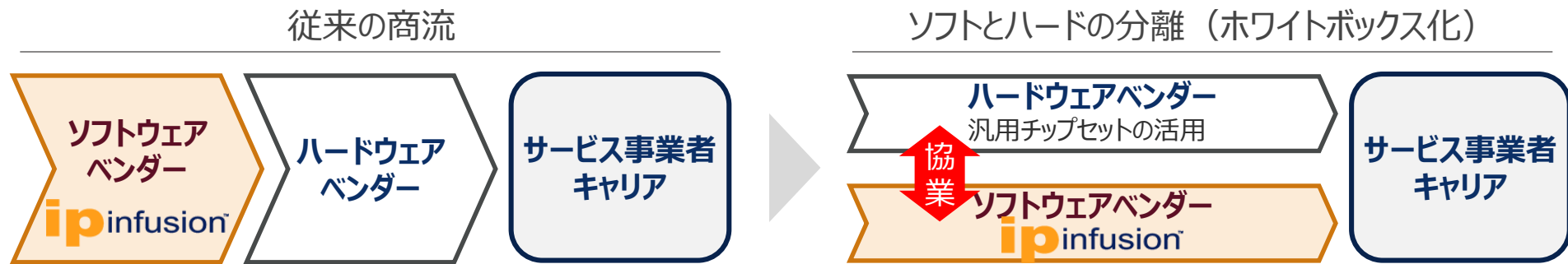
© amazia
『花は紅』©村生ミオ/双葉社
『無職強制収容所』©鎌倉敦史・昭伶/双葉社
『奴隷区』©オオイシヒロト・岡田伸一/双葉社
『orange』©高野莓/双葉社
『監獄実験-プリズンラボ-』©貫徹・水瀬チホ/双葉社
『トモイ〜人間狩り〜』©金沢伸明・RAZEN/双葉社

「PUBLUS®」機能拡大イメージ

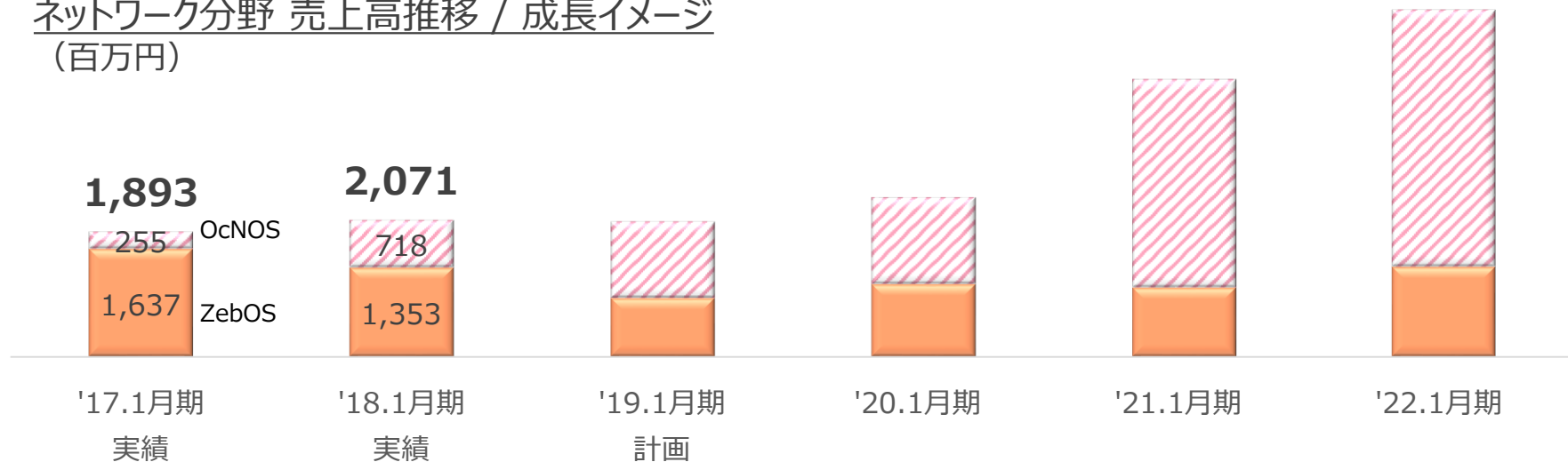


ネットワーク分野 取り組み

- ・ ホワイトボックス向けNetwork OS「OcNOS®」を事業の柱に育成
- ・ サービス事業者・通信キャリアへのソフトウェア直接供給を目指す
- ・ 2020年まではキャリアによる技術検証が続くと見込まれ、製品力強化を継続



ネットワーク分野 売上高推移 / 成長イメージ
(百万円)



IV. 2019年1月期（第35期） 計画

2019年1月期（第35期）計画（単位：百万円、%）

将来の大きな事業成長に向け投資を加速しつつ、安定的な増収増益を図る

	2018年1月期 実績	2019年1月期 業績予想値	増減額	増減率
売上高	7,930	8,200	+269	+3.4%
営業利益	413	500	+86	+20.9%
経常利益	316	500	+183	+58.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	370	+123	+49.8%
一株当たり 当期純利益(円)	6.38	9.56	+3.18	+49.8%

配当について

2018年1月期

- ・ 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行い、個別財務諸表上の繰越欠損を全額解消して財務体質の改善を図り、配当実施に向けた環境を整備。
- ・ しかしながら、連結業績・個別業績ともに当初想定あるいは前事業年度実績を下回る利益水準となったことから、誠に遺憾ながら配当を見送る。

2019年1月期方針

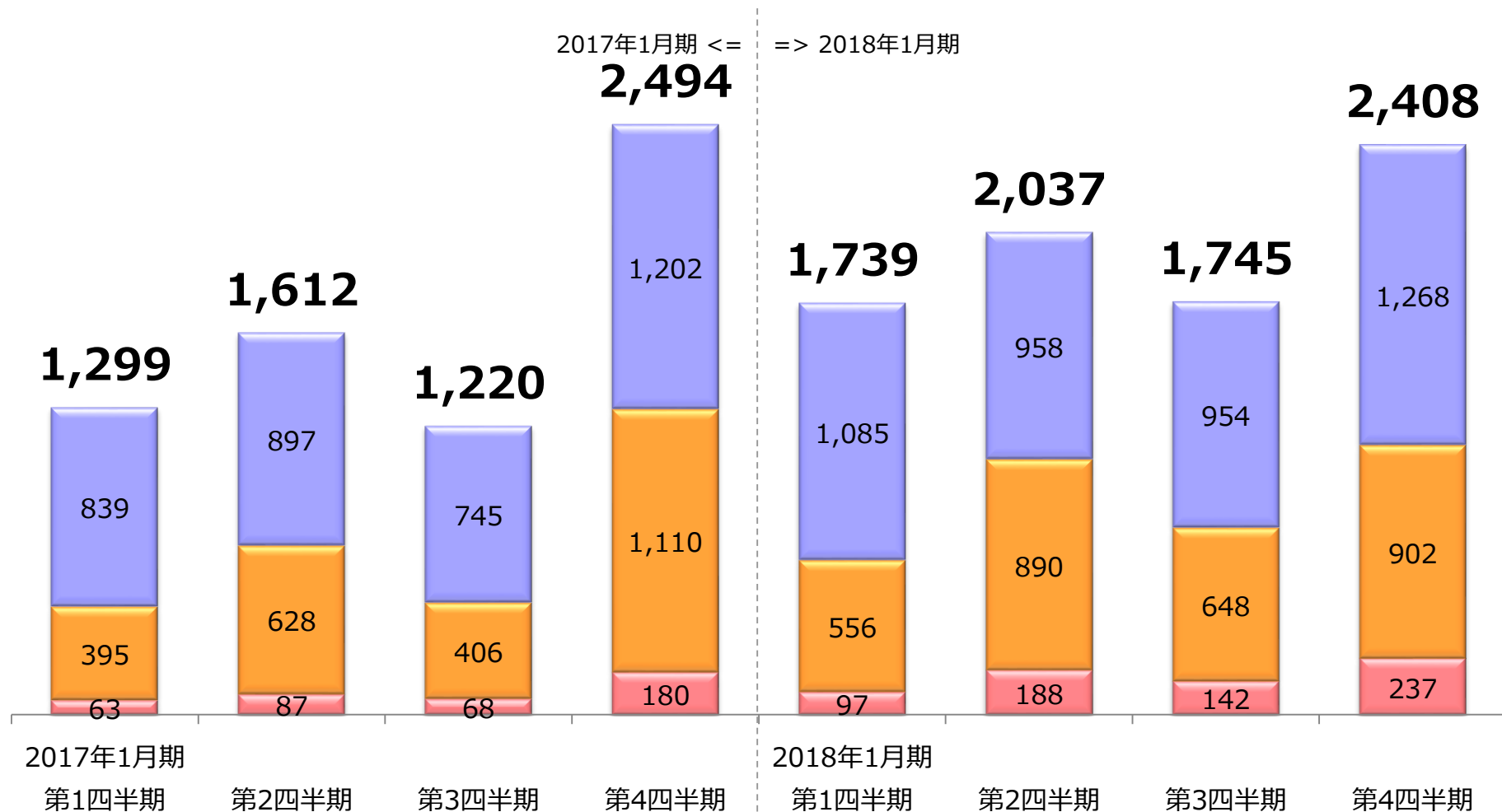
- ・ 3年連続の黒字化を見込み、利益計画達成を前提に復配を予定。
- ・ 但し、事業上のリスクや繰越利益剰余金の蓄積状況等を総合的に勘案する必要があるため、現時点では配当予想額は未定とさせていただきます。

Appendix

1. セグメント別売上高の推移
2. セグメント別営業損益の推移
3. 営業外損益・特別損益の明細
4. 連結貸借対照表（要約）
5. 連結キャッシュ・フローの状況（要約）
6. 人員の推移
7. 2018年1月期 下期 開示一覧
8. セグメントの変更について
9. セグメント別計画

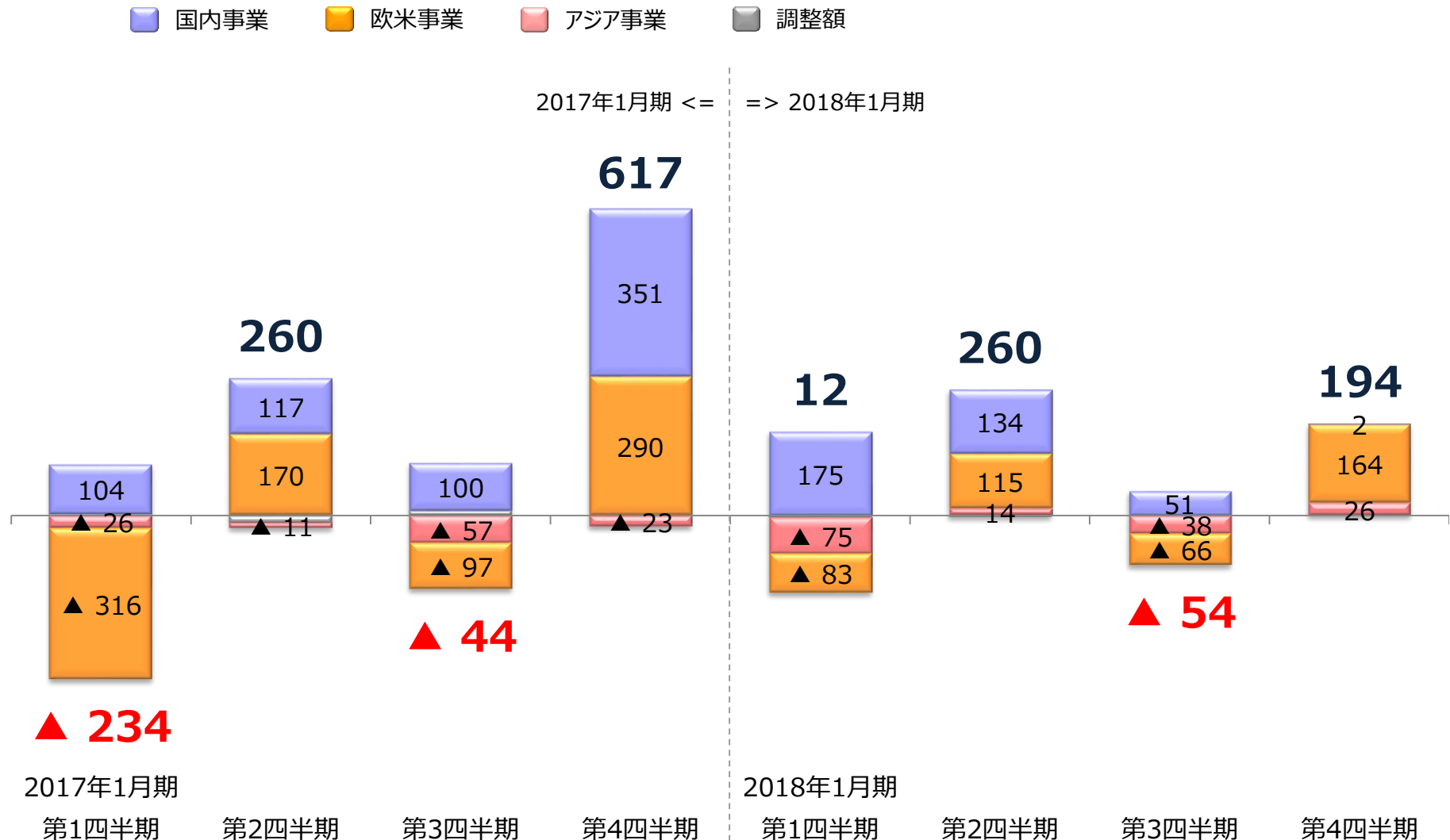
セグメント別売上高の推移 (単位：百万円)

■ 国内事業 ■ 欧米事業 ■ アジア事業



※2018年1月期第1四半期より報告セグメントを変更したため、過年度分の業績・人員を変更後のセグメント区分に従って表示

セグメント別営業損益の推移 (単位：百万円)



※2018年1月期第1四半期より報告セグメントを変更したため、過年度分の業績・人員を変更後のセグメント区分に従って表示

営業外損益・特別損益の明細 (単位：百万円)

	科目名	ACCESS (本社)	子会社	修正	連結合計
営業外収益	為替差益	60	▲15	2	47
	受取利息	24	12	▲6	29
	その他	4	12	▲7	9
	合計	88	9	▲11	86
営業外費用	投資事業組合運用損	99	-	-	99
	持分法による投資損失	-	-	82	82
	その他	0	8	▲7	0
	合計	99	8	75	183
特別利益	貸倒引当金戻入益	2	-	▲2	-
	合計	2	-	▲2	-
特別損失	特別退職金	-	21	-	21
	減損損失	-	1	-	1
	固定資産売却損	-	0	-	0
	投資有価証券評価損	178	-	▲178	-
	合計	178	22	▲178	22

連結貸借対照表（要約）（単位：百万円）

	2017年1月期 期末	2018年1月期 期末	増減
【資産】			
流動資産	26,482	28,311	+1,829
現金及び預金	23,932	25,386	+1,453
売掛金	1,738	2,153	+415
その他	810	770	▲39
固定資産	4,240	2,732	▲1,508
有形固定資産	382	335	▲46
ソフトウェア	1,048	1,664	+616
投資その他の資産	2,809	731	▲2,078
資産合計	30,722	31,043	+321
【負債・純資産】			
流動負債	1,126	1,198	+71
固定負債	333	380	+46
純資産	29,261	29,464	+202
資本金・資本剰余金	39,870	29,386	▲10,483
利益剰余金	▲8,043	2,686	+10,730
自己株式	▲345	▲345	-
その他包括利益累計額	▲2,247	▲2,295	▲47
新株予約権	27	29	+2
非支配株主持分	1	2	+0
負債純資産合計	30,722	31,043	+321
【その他】			
株主払込資本	63,318	63,318	-
株式時価総額	27,112	34,656	+7,544
株価（円）	690	882	+192

長期性定期預金を振り替え

欠損填補を実施し、個別B/S上の繰越利益剰余金の欠損を解消

連結キャッシュ・フローの状況（要約）（単位：百万円）

	2017年1月期 通期	2018年1月期 通期
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	121	709
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲938	786
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲30	▲0
IV. 現金及び現金同等物に係わる為替換算差額	▲157	23
V. 現金及び現金同等物の増加額	▲1,005	1,519
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	25,163	24,157
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	24,157	25,677

税金等調整前当期純利益	: 414 百万円	税金等調整前当期純利益	: 293 百万円
売上債権の増加	: ▲227 百万円	減価償却費	: 613 百万円
減価償却費	: 188 百万円	売上債権の増加	: ▲391 百万円
為替差損益	: 124 百万円	棚卸資産の減少	: 144 百万円

無形固定資産の取得による支出	: ▲890 百万円	定期預金の払戻による収入	: 2,192 百万円
有形固定資産の取得による支出	: ▲169 百万円	無形固定資産の取得による支出	: ▲1,130 百万円
定期預金の預入による支出	: ▲109 百万円	定期預金の預入による支出	: ▲134 百万円
定期預金の払戻による収入	: 99 百万円	関係会社株式の取得による支出	: ▲85 百万円

人員の推移

(単位：人)		2017年1月期				2018年1月期			
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
国内事業	開発	143	143	142	137	141	142	141	143
	営業	29	29	29	29	29	29	29	28
	管理	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	172	172	171	166	170	171	170	171
欧米事業	開発	250	278	271	269	267	264	261	253
	営業	24	24	25	24	21	23	23	22
	管理	19	19	18	18	17	17	17	16
	合計	293	321	314	311	305	304	301	291
アジア事業	開発	13	13	29	37	35	43	37	36
	営業	12	13	15	10	11	11	18	21
	管理	9	8	10	10	10	10	10	10
	合計	34	34	54	57	56	64	65	67
本社部門等	管理	27	29	30	29	30	30	31	30
	合計	27	29	30	29	30	30	31	30
合計		526	556	569	563	561	569	567	559

※全て各四半期末時点における人員数

※2018年1月期第1四半期より報告セグメントを変更したため、過年度分の人員を変更後のセグメント区分に従って表示

2018年1月期 下期 開示一覧 ①

		適時開示	報道発表
第3四半期	8月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成30年1月期 第2四半期（累計）連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ（8月28日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小学館が運営する月間120万UUの人気Webまんがサービス「サンデーうぇぶり」が「PUBLUS®」をベースにリニューアル ■ 国内最大級の無料マンガアプリサービス「マンガBANG!」のWeb版サービスにブラウザ版EPUB3対応電子書籍ビューア「PUBLUS® Reader for Browser」が採用 ■ JVCケンウッドの最新車載器にACCESSの「NetFront® Browser NX」が採用
	9月		<ul style="list-style-type: none"> ■ ACCESSの介護業務支援システム「ケアリス™」と、グッドツリーの介護ソフト「ケア樹Free」を連携、販売開始 ■ 東北大学と東京書籍、ACCESS、日本マイクロソフト「小・中学校におけるデジタル教科書学習履歴データ収集と分析」共同実証研究を実施
	10月		<ul style="list-style-type: none"> ■ auのAndroid搭載スマートフォン向けにACCESSのメールアプリの最新版「CosmoSia® 2」が採用 ■ 再春館製薬所にACCESSの台湾向け「CROS™（クロス）」の電子発票サービスが採用

2018年1月期 下期 開示一覧 ②

		適時開示	報道発表
第4四半期	11月		<ul style="list-style-type: none"> ■ ACCESSとジャパンギャランティサービス、建設業界向けサイネージの開発・提供において協業 ■ IP Infusionの統合ネットワークOS「OcNOS™」がEdgecore Networksのオープン規格準拠パケットトランスポンダー機器に対応
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 代表取締役及び取締役の異動並びに人事異動に関するお知らせ（12月19日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国470以上の居酒屋で展開の「モスト×養老乃瀧グループスペシャルコラボキャンペーン」に、「LINE Beacon」対応のACCESSの「USBビーコン」が採用 ■ KCCSモバイルエンジニアリングとACCESS、ネスレ日本のオフィス向け新サービス「キットカット たのめるくん」のシステムを開発
	1月		<ul style="list-style-type: none"> ■ 韓国大手電子書店「YES24」にEPUB3対応電子書籍ビューア「PUBLUS® Reader for Browser」が採用

セグメントの変更について

各取締役の担当地域を基礎とした地理区分によるセグメント区分を改め、
製品 / 事業を基礎としたセグメント区分に変更

現行セグメント（2018年1月期）



変更後セグメント（2019年1月期～）



セグメント別計画 (単位：百万円)

国内事業		2018年1月期 実績	2019年1月期 業績予想	増減額	増減率	IoT、電子出版ともに 事業成長を見込む
	売上高 ^{※1}	4,631	5,000	+368	+8.0%	
	セグメント利益 ^{※2}	298	370	+71	+24.2%	
海外事業		2018年1月期 実績	2019年1月期 業績予想	増減額	増減率	概ね前年並みの売上高だが 収益性は改善
	売上高	1,227	1,200	▲27	▲2.2%	
	セグメント利益	41	70	+28	+70.7%	
ネットワーク ソフトウェア 事業		2018年1月期 実績	2019年1月期 業績予想	増減額	増減率	主力製品がZebOSから OcNOSに変わる転換期
	売上高	2,071	2,000	▲71	▲3.4%	
	セグメント利益	86	60	▲26	▲30.2%	

※1 外部顧客への売上高 ※2 本社費配賦後の営業利益

2018年1月期の実績は、変更後のセグメント区分に基づき組み替えて記載